



どう捉えるか

毎年、4月2日は国連が定めた「世界自閉症啓発デー」です。また、4月2日から8日は発達障害啓発週間となっております。自閉症をはじめとする発達障害については、広く啓発する活動が行われています。具体的には、世界でも142の国や地域でランドマークを青くライトアップする「ライト・イット・アップ・ブルー」というイベントが行われ、日本でも東京タワーなどが青くライトアップされます。この期間には、各地で関連するオンラインシンポジウムなども開催されます。

十数年前と比較すると、「発達障害」の理解は広まり、対応の方法や環境調整は、その人のニーズに合わせて多岐にわたるようになってきました。実際に私が関わらせていただいているケースでも、成長段階にそった対応を、本人を含む関わる人みんなが、一緒に考えて

調整していくことが増えていきます。小学校高学年以上の子どもの場合には、自分の得意・不得意について自己理解を促し、自分でも周りとうまく折り合いをつけたいいかを話し合い、実際にやってみて、また話し合うということを繰り返して行います。家族や先生など周りの大人とは、その子どもを「どう捉えるか」を話し合っていきます。例えば、授業中に本人自身はしっかりと聞いて取り組んでいるつもりでも、特性から自分でも気づかないうちにぼーっとしてしまう子がいたとします。周りからは「話を聞いていない、サボってる」と誤解を受けてしまいがちです。でも、本人の注意を向けるような声掛けをしていくことで、授業の流れに戻ってくる事ができるのだとすれば、正しい本人理解は「聞いていないのではなく、ぼーっとしやすいから声をかけて戻す」ということになり得ます。正しく理解していないと、「できるようにする工夫」どころか、子どものモチベーションを下げてしまうような対応につながってしまいかもありません。日常の小さなことですが、発達障害の特性から、その子どもに実際にどんなことが起きているのか、を捉えていくことが有効な対応になっていくのです。

一見すると不真面目だったり、できないように見えてしまうことでも、その背景に発達障害の特性が潜んでいることを理解していくことで、その子どもの「生きづらさ」「わかってもらいにくさ」に気づくことができます。発達障害の理解は広まりつつありますが、本人たちを「どう捉えるか」という視点が実際の対応につながっていくのです。一人でも多くの人がこの視点をもつことができると思います。

【問い合わせ】

一般社団法人日本自閉症協会

☎03・3545・3380

ホームページはこちらから。



軽井沢の植物と

方言 49



春と秋に異なる花をつけるタンポポ？
センボンヤリ 千本槍

町内にも自生し、南千島、北海道、本州、四国、九州の山地の日当たりのよい草地等に見られる多年草です。4月中旬から5月上旬頃に通常の花を、秋に閉鎖花をつけます。センボンヤリの名前は、秋に林立する花茎を槍にたとえて名づけられたそうです。

方言と由来

①ヤマタンポポ

由来は不明です。山地に咲くタンポポのような植物という意味で名づけられたのかもしれない。

【参考文献】佐藤邦雄（1978）
信州佐久の植物方言

【問い合わせ】植物園 ☎48・3337